

2021年度（設計）

緑の循環 —白河市の魅力発信と体験のための滞在施設—

邊見 桃子

福島県白河市内の一面を敷地とした、コロナ禍の中で新しい土地に移住を考える人のために、事前に土地柄を体験できる中長期滞在施設の提案である。施設の中心となる地域住民と移住希望者間でのコミュニケーションを誘発するために地域の情報を発信する町会所を併設し、また祭礼で使用される山車の保管機能も備えることで、地域活動を通して両者の交流が促進されることを意図している。住戸部分は半屋外

の路地など住民同士のコミュニケーションを誘発する魅力的なスペースを配置し、さらにそのスペースを利用して、多様なニーズに合わせて柔軟に対応できる住戸空間の提案を行っている。また、中庭にはワークスペースも設置し、住民間で共同できるスペースも設置した。（指導教員 安田光男）



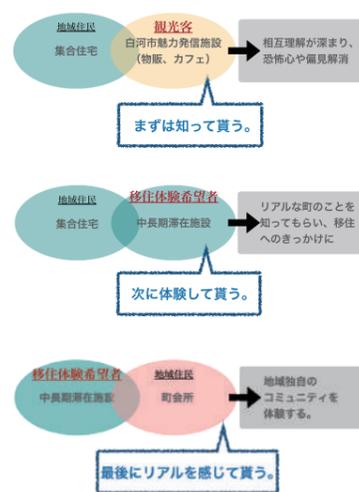
白河市の中間的な立ち位置



計画する3つの用途



外観パース 白河市魅力発信施設と町会所



認知から移住へのプロセス



外観パース 3つの用途に囲まれる中庭

ライフサイクルの変化を許容する 多様なコミュニケーション誘発空間を生み出す。



- ・土間が室空間同士を柔らかく繋ぎ、隔てる。
- ・自在な組み合わせによる住まいが可能に。
- ・土間空間がコミュニケーションを誘発する。

入居時 子育て世帯を想定。2LDK + α を選べる。



- ・+αには最低限の水回りが設置されている。
- ・+αは独立しているため、趣味室やコロナ禍での仕事場として利用できる。

15年後 子供が進学を期に家を出る。+αを下宿人に賃貸。



- ・賃貸は、白河市に移住を考えている家族に貸し出す。（移住体験）
- ・実際に地元の人たちの中で生活することで、よりリアルな移住をイメージすることができる。

30年後 子供も独り立ちし、余った部屋をさらに賃貸へ。



- ・賃貸できる場を増やすことで、安定した収入を得ることができる。
- ・下宿人が生活空間の中に入りこむことで、コミュニケーションを誘発。

45年後 親の面倒を見るため子供が同居。賃貸していた一部を家族用に戻す。



1階集合住宅兼移住体験施設



集合住宅住民のライフスタイルの変化に対する対応と、それにより生まれる余剰スペースを活用した移住体験の提案